
口頭発表 | 1. 栄養・飼養

栄養・飼養2

座長：黒澤 亮（東京農大）、泉 賢一（酪農大農食環境）、河合 正人（北大FSC）、塚原 隆充（栄養・病理研）、川瀬 貴博（栄養・病理学研究所）、石川 翔（兵庫淡路農技セ）、熊谷 元（京大院農）、平山 琢二（石川県大生物資源）

2022年9月16日(金) 13:00 ~ 17:00 Zoom会場1 (オンライン)

I-16-18~I-16-19：黒澤 亮

I-16-20~I-16-21：泉 賢一

I-16-22~I-16-25：河合 正人

I-16-26~I-16-29：塚原 隆充

I-16-30~I-16-31：川瀬 貴博

I-16-32~I-16-34：石川 翔

I-16-35~I-16-37：熊谷 元

I-16-38~I-16-40：平山 琢二

16:30 ~ 16:40

[I-16-39]黒毛和種去勢牛の血中ビタミン A濃度が体脂肪脂肪酸組成に及ぼす経時的影響

*吉田 恵実¹、正木 達規¹、大崎 茂¹、細田 真菜²、上田 修司² (1. 兵庫農総セ畜技セ、2. 神大院農)

【目的】兵庫県の枝肉市場ではモノ不飽和脂肪酸（MUFA）割合の表示販売を行っており、生産現場から脂肪質改善技術の開発が求められている。脂肪酸不飽和化酵素(SCD)はビタミン A(VA)が発現量に関与しているとラットで報告がある。当所の試験で血中 VA濃度が体脂肪のステアリン酸割合に影響することが分かっている。そこで、VA濃度の違いが体脂肪の MUFA割合に及ぼす影響を検討した。【方法】12か月齢の黒毛和種去勢牛20頭を VA濃度の違いにより高区と低区に分けた。18~27か月齢時に、高区は40~50IU/dl、低区は20~30IU/dlで推移するよう VAを給与した。飼料摂取量は毎日、体測値は毎月、血液成分は2か月毎に測定した。体脂肪は第5-6腰椎部の皮下脂肪を2か月毎に採取、分析した。30か月齢でと畜後、第6-7肋間の胸最長筋、筋間、皮下および腎周囲脂肪の脂肪酸組成を分析した。枝肉格付は日本食肉格付協会の格付結果を用いた。【結果】 MUFA割合は経時的に増加したものの、試験区間で有意な差はみられなかった。多価不飽和脂肪酸割合は高区の方が28か月時に高値を示した。枝肉成績および SCDmRNA発現量は差がなかった。脂肪酸組成と発育等の関係を調査した結果、MUFA割合と肥育中期1日あたり増体量に正の相関($r=0.581$)がみられた。中期の発育改善で MUFA割合を高められる可能性が考えられた。